一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌

ケアマネ通信　やまがた No.15

巻頭言

介護の専門性とチームアプローチ

山形県介護福祉会会長 **斎藤　幸子**

日頃より、山形県介護福祉士会の事業の推進に関しましては、ご支援、ご協力を賜り御礼申し上げます。

介護保険制度の創設から15年目を迎え、平成27年度介護報酬改定が決定しました。今後増大することが予測される、認知症高齢者や医療ニーズを併せ持つ中重度の要介護者への更なる対応の強化が改定の基本的な考え方とされています。介護が必要な状態となっても、「住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることができるようにする」という地域包括ケアの考え方の実現を図っていくことが重要であります。

要介護者へのサービスは専門職による提供であり、利用者が求めるものも高度化・多様化している今、専門性の高い人材をいかに効果的・効率的に確保して、ニーズに応えていかなければなりません。

また、団塊の世代が全て75歳以上となる2025年以降、医療ニーズを併せ持つ要介護者の増大が見込まれることから、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されることが、喫緊の課題と言えます。

介護福祉士は生活支援の専門職として、利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」の実現と継続を支援するため、介護職チーム及び他職種との協働・連携を図り、利用者に適切なサービスを提供することが責務であります。

利用者の生活上の課題を解決するためには、介護職が立案する介護計画が必要であり、介護支援専門員が立案する介護サービス計画に連動していることが求められます。

双方の計画書における目標は、利用者自らが望む生活の実現に向けて設定され、介護職は利用者の最も近いところにいて、多くの情報を得ることができる職種であります。もちろん個人情報の取り扱いは、「秘密の保持」を介護の原則とし、専門職として意図的にアセスメントする力が求められます。また、情報を収集する際には、客観的事実を多く把握することが、支援の有効性・無効性を裏付ける根拠となることを意味し、客観的データを蓄積することが利用者へのよりよい支援を提供するための重要な材料となります。

また、近年、介護において、利用者の「尊厳を守る」ことが強調されているように思いますが、人間としての在り方を損なうことがなく、価値観や生き方を尊重されること、つまり人権を侵害されることなく、人間として敬意をもって接してもらうこと等があげられ、介護職は高い「倫理観」を持ち、「個別性」を理解し、根拠に基づく介護を実践することが専門性であると思います。

利用者の「その人らしい生活」を支え、継続できるように支援をしていくには利用者を中心としたケアチームが形成され、チームアプローチの実践が必須となります。

専門職がそれぞれの役割を果たし、各専門職間が十分に情報を共有して、それぞれの専門性を発揮することが重要であり、介護職は介護支援専門員や他職種の方々と常に情報を共有し、連携しながら利用者の望む生活の実現に向けて支援をして参りたいと思っております。

巻頭言
山形県介護福祉会会長　斎藤　幸子 …… 1
第3回 庄内ケアマネージャー大会参加録 …… 2
理事会報告 …… 3
委員会報告 …… 4
地区支部報告 …… 5
相談窓口（ケアマネ110番）より …… 7
書籍紹介 …… 7
コーヒータイム …… 8
編集後記 …… 8

第3回 庄内ケアマネジャー大会参加録

～第33回山形県介護支援専門員協会庄内地区支部研修会～

●日時　平成26年12月5日(金) 13時30分～16時30分　　●会場　庄内総合支庁 4階 講堂

基調講演　「精神疾患を有するご家族やご本人への支援を考える」

講　師　日本海総合病院認知症疾患センター　精神保健福祉士　今野　智美 氏

演題1

「統合失調症の娘と暮らすAさんへの支援について
～Aさんが自宅で不安なく生活できるためには～」

演　者　ニチイケアセンター鶴岡　市川　景子 氏

演題2

「自分の限界まで面倒をみる!
～夫婦が望む自宅での暮らしを支える為に～」

演　者　高齢者福祉生活協同組合酒田地域
福祉支援事業所ヘルパーステーションこだま
高橋　典子 氏

演題3

「統合失調症のケース
～専門職の視点を持チームで対応～」

演　者　酒田市社会福祉協議会　小林　吉広 氏

演題4

「精神疾患がある家族が
キーパーソンである方への支援
～Kさんを取り巻く人々の関わり～」

演　者　さくらホーム居宅介護支援事業所
伊藤　丈知 氏

10月の秋田での東北ブロック研修会に続き、今回は庄内地区三川町へ、3回目の開催となる、「**ケアマネジャー大会**」へ参加してきました。以前から、なんと「大会」を開催してしまうという庄内地区のまとまりに感心していたこともあり、初めて参加してみました。

当日は強い寒気が訪れ、月山道は雪。庄内地区の介護支援専門員と関連職種の方々＋内陸から報告者１名の200名程が会場の座席一杯になり、外気の寒さとは反しての熱気が感じられました。

テーマは「**精神疾患**」。麗しき精神保健福祉士の今野智美氏の基調講演と、事例4題が発表され、とても充実した内容で開催されました。

講演内容は統合失調症を中心にした精神疾患の基本的な疾患と障害の説明と、支援の際の留意点へのわかりやすい解説がありました。演題は本人や家族が統合失調症である事例、精神症状が焦点となる事例での支援報告であり、質疑応答からもマネジメントの際には「精神疾患」へ対しての苦労がしのばれました。統合失調症の場合、有病率が1%。ある年齢までは認知症よりも罹患者が多いのですが、その病気としての分かりにくさがまだまだ巷にあるのだと、そして支援際に直面しているケアマネの方々から理解を深めて頂けたのではと感じた次第でした。　（報告 佐藤知生）

理 事 会 報 告

第18回理事会

日　時　平成26年11月29日（土）16時～
ところ　山形国際ホテル
出席者　折居　佐藤（裕）　加地　明日
星川　小関　佐藤（貴）　丹野
加藤（市）　児玉　皆川　荒木
菅原　浜田　藤橋　村山　峯田
柴田

1. 各支部活動について

・最上　12月6日（土）研修会の予定報告。
・庄内　第3回ケアマネ大会、交歓会開催
・村山　ケアマネンボの会　主治医研修会参加
・置賜　研修会開催、会員のメリット等検討中

2. 各委員会活動について

・研修　第3回研修会について（別掲）
・サポート　健康フェアに参加
・広報　ケアマネ通信No14の編集作業中
・調査・研究　H25年度の調査まとめ中
・総務　理事改選について（別掲）
・研修受託　受託した研修終了

3. 新規入会者について

資料の通り、承認される。

4. 理事改選について

今後の日程について。
1月上旬　地区支部・関係団体へ推薦依頼
2月下旬　理事会で上記候補決定・総会日程決定
総会30日前：選挙公示
総会10日前：立候補（自薦、他薦）締切

5. その他

・第3回研修会について
日本介護支援専門員協会会議の伝達
開催場所は内陸・庄内の2か所
日程　内陸3/29　　庄内調整
・会員登録事項の確認を行う。主任介護支援専門員の項目を入れる。

第19回理事会

日　時　平成27年2月28日（土）14時～
ところ　山形市総合福祉センター
出席者　折居　佐藤（裕）　高木　伊藤（喜）
明日　星川　小関　佐藤（貴）　佐藤（稔）
丹野　加藤（市）　児玉　荒木　佐藤（一）
佐藤（知）　菅原　浜田　藤橋　村山
吉田

1. 各支部活動について

・庄内　第3回ケアマネ大会開催
・村山　第3回研修会開催
・置賜　1月24日研修会開催

2. 各委員会活動について

・サポート　2月末の相談件数142件
・広報　会誌15号編集中
・調査・研究　調査結果を近々発刊予定
・研修　伝達研修会　庄内は3/20

3. 新規入会について

資料の通り、承認される。

4. 理事改選について

・団体推薦及び地区支部推薦理事候補について承認される。
・外部監事について山形県社会福祉協議会へ推薦依頼することとされた。
・第4回総会及び研修会が6/7と決定された。

5. 平成27年度事業（案）について承認された。

6. 顧問設置規則の制定及び運営規則一部改正について決議された。

7. その他

・日本介護支援専門員協会平成27年度会議等予定及び次期代議員・役員選等の流れについて報告があった。
・会員登録事項調査結果について報告があった。

委 員 会 報 告

サポート委員会

過去の相談実績ですが、平成23年度148件、平成24年度135件、平成25年度134件と毎年100件を超える相談を頂いています。今年度は2月末日で142件ですが、制度改正の年はより多く相談を頂く傾向があります。来年度の改正に向けての相談が増えてきていますので、情報収集に励みながら皆さんの質問に答えらえるように努力していきたいと思います。なお、判断に迷う時は県へ照会をかける場合があります。回答まで時間を要することがありますので、ご了承ください。　（委員長　荒木昭雄）

広報委員会

今回は，庄内ケアマネジャー大会に参加して記事にさせていただきました。
皆様から是非とも広報して欲しいなどのご希望があれば協会までご連絡下さい。
お待ちしております。　（委員長　佐藤知生）

調査・研究委員会

昨年度、協会会員と県内訪問介護（介護予防訪問介護）事業所の皆様にご協力をいただきました、「訪問介護（介護予防訪問介護）サービスに関する調査」につきまして、調査結果がまとまりました。近々、皆様にお届けいたしますので、ご覧いただければと思います。

今後も様々な角度から、調査を行ってまいります。現状により近いデータを収集し、結果を発信していくためには、皆様のご協力が必要です。今後とも宜しくお願いいたします。

また、調査内容について希望や提案等、いつでもお寄せください。　（委員長　菅原麗子）

≪今年度の諸会議・委員会への参加≫

◇日本介護支援専門員協会関係
　社員総会、都道府県支部長会議　東北ブロック会議　小規模多機能・認知症対応型共同生活介護部会
　「介護保険制度改正・介護報酬改定に係る伝達研修」指導者研修会
　「地域ケア会議における介護支援専門員の役割を学ぶ」指導者研修会
◇外部委員会等委員、講師派遣、研修会等参加
　山形県在宅医療推進協議会
　健康長寿安心やまがた推進本部会議
　健康長寿安心やまがた推進本部村山地域協議会
　山形県高齢者保健福祉推進委員会
　山形県高齢者虐待防止県民会議
　山形県在宅医療推進協議会
　山形県認知症施策推進会議
　山形県難病医療等連絡協議会
　山形県後発医薬品安心使用促進協議会
　保険者によるケアプラン点検事業
　山形市認知症徘徊対策検討班・認知症対策検討会
　山形県在宅歯科医療連携室事業実行委員会
　認知症疾患医療連携協議会
　研修会講師推薦等
　　山形県介護支援専門員実務研修、山形県介護支援専門員更新・専門研修、
　　山形県主任介護支援専門員研修、山形県実務従事者基礎研修、山形県国
　　保地域医療学会、山形県、市町村及び職能団体等における研修会
　　山形県地域包括・在宅介護支援センター協議会総会・研修会

地区支部報告

◎庄内地区支部

平成26年12月5日に第3回庄内ケアマネジャー大会が庄内総合支庁にて開催されました。日本海総合病院認知症医療センター精神保健福祉士の今野智美氏を迎え「精神疾患を有するご家族やご本人の支援を考える時に」をテーマに基調講演をしていただきました。色々な病気や障害について詳しく説明があり、理解を深めることができたと参加者からも好評を得ております。これまでの生活の歴史に思いを寄せ、寄り添う支援が大切であると学びました。

その後には、「精神疾患」をテーマに庄内地区４名のケアマネジャーが日ごろの支援での様子を発表しました。それぞれのケアマネジャーに共通して言える事は、本人を取り巻く環境を理解し関係機関や関係者との情報共有と連携が必要だということでした。参加したケアマネジャーからも関心の高さを表すように多数の質問も飛び交い充実した時間になりました。日ごろ、自分達が直面している困難なことが他のケアマネジャーにも共通していることだと感じる会となりました。今後もテーマを変えながら継続し開催をしていく予定でいます。

◎置賜地区支部

平成27年1月24日（土）13時30分から、長井市置賜生涯学習プラザにおいて、置賜地区支部第2回研修会を開催いたしました。今回は、「第6期にかかる介護保険制度の動向」と題して、山形健康福祉部健康長寿推進課長寿安心支援室室長補佐の伊藤啓氏から社会保障制 度の改革や地域包括ケアシステム構築などについて講義をしていただきました。

参加者は、会員47名、非会員47名の94名でした。介護保険制度の時期での話であったこともあり、みなさん熱心に聞いていらっしゃいました。

◎村山地区支部

寒河江市西村山郡医師会主催の（介護保険）主治医研修会が下記の通り行われました。村山地区支部に毎年ご案内をいただき、今年度も第3回研修会と位置づけており会員30名ほど参加しました。

期　日　平成27年2月20日（金）18:30～20:00
場　所　寒河江市西村山郡医師会館ホール
講演１　演題　「河北病院がめざす緩和医療　総論」
　　講師　山形県立河北病院
　　院長　多田敏彦先生

講演2　演題　「河北病院における緩和医療
各論～意思決定支援から看取りまで～」
講師　山形県立河北病院
緩和ケア認定看護師　齋藤春美氏

多田院長先生から、「2015年から河北病院はこうなる」急性期病棟120床、包括ケア病棟40床、緩和ケア病棟20床、急患室10床の紹介と、

・緩和医療の全体制御は「緩和外来」
・「緩和外来」のこころは「がんよろず相談」
・緩和病棟を抱えることで深みと幅が
・緩和医療の延長には「在宅緩和」も

という講義内容で、中でも「和み」がキーワードでした。緩和ケア認定看護師齋藤氏は、実際の活動、事例を通してまた救急室・外来との連携、在宅医療を支える

工夫としての「お約束カード」（主治医作成の情報カード、退院後受診したら主治医不在でも入院できるというお約束、いつでも病院に戻れるという安心感がある）の紹介が心に残りました。

受講した介護支援専門員からの反響が大きく、充実した研修となりました。

◎山形地区支部

平成14年に発足した山形地区支部、初代の支部長は熊坂聡さんでした、一期二年終了後、私が引き継ぎ、年４回の研修を開催、その打ち合わせで役員が集まり、他職種連携をまさに実現していたと思います、10年間お支えいただき有難うございました。

この度、山形地区支部の支部長を丹野克子さんにお引き受けいただきました、丹野さんにつきましては皆様、十分ご承知と思いますので省略しますが、適任と確信しています。今まで築いた地区支部の土台にさらに新たな視点で運営を行うものと思います。

当初から介護の質については議論されていましたが、開始当初は供給体制だけが問題にされていました、ある程度満たされて現在、「質」は大いに担保されなければなりません、

その中心には「ケアマネジャー」と思います、地区支部をそれに向けて発展したいと思います。

◎最上地区支部

平成26年12月6日（土）14時から16時 JR新庄駅内ゆめり2階アベージュにて山形県在宅医療推進事業平成26年度山形県介護支援専門員協会最上地区支部研修会を開催いたしました。日本介護支援専門員協会副会長 原田重樹氏より『地域ケア会議におけるケアプランについて』講演していただきました。参加者は約50名でした。今回は地域包括支援センター職員の方からも多数出席いただき、会員・非会員関係なく、最上地域で『地域ケア会議におけるケアプランについて』関係者で考えるいい機会になりました。

原田副会長より「地域包括ケアシステム構築」が必要となった社会的背景、「地域ケア会議」開催の意義等の説明をしていただき、最後に三重県四日市で社会福祉法人青山里会が実施している生活支援サービスを紹介していただきました。内容的には２時間では少ない講演となりました。

アンケート結果から、「地域ケア会議に介護支援専門員としてどう関わっていったらいいか、わからなかったが、今日の研修会でなんとなく理解できた。」という感想をいただきました。改めて「地域包括ケアシステム」に介護支援専門員協会地区支部としてどう関わっていったらいいのか、「地域ケア会議」に事例提供する介護支援専門員をどう支援していったらいいのか、など課題に気づくことができた研修会となりました。

ケアマネ110番より

相談窓口（ケアマネ110番）より

このコーナーでは山形県介護支援専門員協会相談窓口に寄せられたご相談と回答をお伝えします。

透析可能な施設

質問　知的障害の40代の子供と2人暮らしの方です。人工透析が必要な状態で、通院も車椅子でなかなか大変な状態で、施設を希望しています。車椅子は自分で室内は移動可能です。特別養護老人ホームは入所待ちで、老人保健施設では施設で通院出来ないのでと断られます。お金があればいいのですが、透析できる有料施設も無理です。今後、状態悪化することを子供もなかなか理解できない状態です。他に親戚は県内にはおらず、ケアマネジャーとして地域包括支援センターにも相談していますが、埒があきません。どのような支援をしていけばいいのかご指導ください。

回答　ご相談内容を整理すると、

① 人工透析の方の施設入所について（受入可能な施設が少ない）

人工透析の方の入所施設受入に関しては、透析日の送迎、付き添いなどのことからどうしても、特別養護老人ホームの入所検討会議では受入困難となる可能性が高くなります。老人保健施設では、治療費施設負担などで入所できないこともあるようです。

② 経済的な問題（利用料の支払いに制限がある）

医療法人運営している透析の方を受入れている有料老人ホームもありますが、経済的に大変な方は難しいと思われます。

③ 同居する子供が知的障害（親の病状を理解できない）

子供さんに知的障害があり、親の病気に対する病識がない。ということに関しては、療育手帳、障害区分判定などを受けてサービス利用されているかと思われますがいかがでしょうか。

まずは、入所申込をしている特別養護老人ホームへ緊急性が高いことを相談してみてはどうでしょうか。入所判定会議にて待機期間だけでなく在宅介護困難であれば、評点が加点される事由にあたります。また、入所担当生活相談員へ家族状況・御本人の状況を再度報告するのもいいと思います。次に、主治医、医療連携室から透析患者の入院可能な病院を紹介してもらうのはどうでしょうか。地域包括支援センターに相談されているとのことですが、特別養護老人ホームへの緊急入所の相談であれば、保険者に相談してみるのもいいかもしれません。入所が難しい場合には在宅介護継続の検討も必要になります。子供さんの障害程度が不明ですが、行政の障がい者担当に相談されてみてはどうでしょうか。

書籍紹介　『オタクの息子に悩んでいます』

朝日新聞「悩みのるつぼ」より
著者：岡田斗司夫（幻冬舎新書）

ラジオや新聞の人生相談はお好きですか?この本は朝日新聞土曜別刷版に掲載中の「悩みのるつぼ」という人生相談の回答者、岡田斗司夫氏の相談&回答集です。

一筋縄ではいかない悩みを抱えた相談者に徹底的に寄り添いながら、「んん?そこか?」と思わず唸ってしまう視点でもって、ミョーに納得できる回答に導いてくれるのです。

スゴイのは、悩みに答えるだけでなく、「悩みにどう向き合うか」その考え方を示してくれるところ。他人の悩みのはずなのになぜか悩みを共有して一緒に考えてしまう、そんな不思議な本なのです。デイープなお悩みから極日常的なお悩みまで、なんでもござれ。

今悩んでいる人にもそうでない人にもお勧めしたい1冊です!　（みなしごハッチ）

ほっと　ひといき
コーヒータイム

紙芝居
「どなただっす
～鏡の中のあねちゃ～」から

さく・え　こだまなおこ

「あんれ　どなただっす？」
「あれま　あねちゃだどれ」
鏡に映った自分に話しかけるおらくばあちゃん。
鏡に向かってニッコニコ。コピット認知症だけど
お話しすることも歩くことも
大好きなおらくばあちゃん。

「あんれ!!　どなただっす!!」「出てってけろ!!」
「勝手に入ってこねでけらっしゃい!!」
ごしゃいでる顔が鏡に映ったもんだから
なおごしゃいで、えらい勢いです。

そんな時　介護員さんが笑顔で呼んでくれます。
「おらくさーん　お茶ですよ。」「あ　そうかい。」
おらくばあちゃんは、介護員さんの笑顔と手のぬくもりでごしゃいでる鏡の中から飛び出すことができるのです。

そして夜　ホームの盆踊り大会
「おー　たまげたなあ」
「おらはじめてだ」　体は自然に踊りだします。
ドドーン!　ドーン!　　職員手作りの願掛け花火
みんなの願いがかないますように。

「あ　こんぺいとうだ」
「おらの大好きなこんぺいとうだ」
「おらにとってけろ」
花火がこんぺいとうに見えたのです。

その夜　夜勤の介護員さんに
「どなただっす」「これ　んまいぞ　あまごいぞ」
大切に紙に包まれていたもの　それは
・・・こんぺいとう

「あねちゃ　半分っこな」

手づくり紙しばいを作ってます。
「記憶に焼きついている大切な出来事や大切な人が今ここに」という認知症の方の世界を表現したいと思いました。

どんびんさんすけ。

編集後記

今年も。300人以上の方が介護支援専門員実務研修受講試験に合格したようです。合格率は16.9％とのことです。全国では合格率19.16％であり、33,535人の合格者が出ているようです。介護福祉士の国家試験の合格者数が9万人ぐらい、医師の合格者数が7,800人ぐらい。多いのか少ないのかは分かりません。ケアマネの実務に就くのは何割ぐらいでしょう。

日本介護支援専門員協会の会員数は3万人ぐらいだったでしょうか。多いでしょうか？新しい年度はどれぐらいの方が入会していただけるでしょうか。　（S.TOT）

一般社団法人　山形県介護支援専門員協会会誌
ケアマネ通信　やまがた　No.15

発行日／平成27年３月
発行人／折居　和夫
発行所／一般社団法人 山形県介護支援専門員協会
〒990-0021 山形市小白川町2-3-31
山形県総合社会福祉センター内
TEL 023-615-6530　FAX 023-615-6521
E-mail : yacm@pony.ocn.ne.jp

印刷・製本／田宮印刷株式会社
〒990-2251　山形市立谷川三丁目 1410-1
TEL 023-686-6111　FAX 023-686-6114